

刻む会 たより

No.38

2009. 6. 26

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内)

TEL 〇八三六(二一)八〇〇三

カンパ振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01590-7-32405

名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

念願の土地入手！

長生炭鉱の問題に心を寄せてくださる皆様に、嬉しいお知らせです。

長年懸案だった追悼碑建立のための土地が、4月、やっと手に入りました。会が発足して一八年が経ち、発足当初よりピーヤが見える場所を中心に土地を探してきました。様々な問題が立ちはだかり、なかなか土地が決まらない状態で、遺族の方々にも悲しい思いをさせてきました。しかし、やっと、長年の願いが叶い、土地を確保するに至りました。遺族の方々にもご報告し、喜んでいただきました。

土地の確保ができましたので、今後の活

動としては、具体的に追悼碑の建立を目指します。

具体的にどのように碑を建立するかについては、現在事務局会議で検討中です。もちろん、遺族の方々の意見も十分に取り入れながら、まずは碑の青写真を作成したいと思っています。

それと同時に、土地購入費用、追悼碑建立費用などの費用をいかに集めるかということ、土地・追悼碑の維持管理をどうするかなど、問題は山積みです。この問題に心を寄せてくださるたくさんの方々のご協力が今こそ必要です。

事務局会議に参加してくださる方、大歓迎です！是非ご参加下さい。また、会議

にはご参加いただけなくても、様々な意見を事務局にお寄せ下さい。もちろん、資金面でのご協力は切実に必要です。今後の活動につきましては、その都度、様々な形でお知らせしていきたいと思えます。

年々遺族の方々がご高齢故に亡くなって行きます。一人でも多くの遺族の方々に建立した追悼碑を見ていただけるよう、一日も早い建立の実現に向けて、皆様のご協力を心からお願いいたします。

(文責 山内弘恵)

※ホームページできました。最新のお知らせはこちらです。

<http://chouseikizamukai.jp/infoseek.co.jp/index.html>

jp/index.html

長生炭鉱「水非常」（水没事故）六七周年追悼式と、長生炭鉱等のフィールドワークで思ったこと

北九州市 ■ 内岡 貞雄

《追悼式、遺族会代表・金亨洙（キム・ヒヨンス）氏の言葉が胸に刻まれました》

二月一日（日）、小春日和のよい天候に恵まれて六七周年（刻む会として第十八回）の長生炭鉱追悼式が、韓国から十一人の遺族の方々をお迎えし、しめやかに行われました。私たちは下関市の朝鮮総連会館からマイクロバスとマイカーを連ね、総勢二〇名で今回の追悼式に参加しました。その感想を述べてみたいと思います。

まず、司会者の井上さんから昨年八月、群馬県で開催された全国高校文化祭で県立宇部高等学校の放送部の生徒の皆さんが、長生炭鉱水没事故を題材にした「レクイエム」を創作し、その作品が放送部門（オーディオピクチャー部門）で最高

写真① 追悼式で挨拶する山口会長



賞の優秀賞に輝いたことが紹介されました。若い方々が、こうした過去の出来事に関心を持ってくださることは何より嬉しいことでした。韓国ではお年寄りが「歴史を忘れたら、その国は滅びる」とよく言われるそうです。日本の若者たちに「歴史的真相を伝える」のは私たち大人の責務だと改めて思いました。

まず、遺族会を代表して金亨洙（キム・

ヒヨンス）氏が挨拶に立ちました。（主催者の方々には感謝の意を尽くせないほどですが）今年も追悼式がこのような草むらの荒地で行われ、亡くなった叔父様に対してほんとうに申し訳ない気持ちです。六七年間も冷たい海の底に置きっぱなしでその御霊も浮かばれないでしょう」というキムさんの言葉が胸に響きました。続いて、刻む会の会長の山口武信氏が一八三名（うち朝鮮人一三十余名）の名前を刻んだ追悼碑建立を一日も早く実現させたいという気持ちを述べられました。事故が発生してからもう六七年、人間の一生でいえば、還暦を過ぎやがて古希を迎えるほどの歳月です。出来るだけ多くの賛同いただける人々を巻き込んで、早期に追悼碑建立を実現させなくてはと願いました。

また、今年の追悼式は日本人がはじめて弔辞を読みました。彼女は洪川（ホンチョン）女子中学校に留学中の日本語教師で、とても心のこもった言葉を述べられました。日本の私たちが、過去の過ち

に対してまず謝罪の気持ちを表わし、そこから始めて、日本と朝鮮半島の人々の友好が深まるという思いを強く持ちました。

「今、私たちにできる事はどんなことだろう?」、帰りのバスで、穏やかな海に立っている二本のピーヤを思い出しつつ、参加した仲間と語り合いました。

《長生炭鉱殉難者之碑には「一八三名の犠牲者の名が刻まれていなかった」》

二月二七日(金)に約三時間かけて「長生炭鉱等のフィールドワーク」を会長の山口武信氏に説明していただきながら廻りました。(ロードマップ参照)

まず、最初に一九一五年(大正四)四月十二日、二三五名という宇部で最大の犠牲者を出した「東見初炭鑛遭難者之墓」を訪ねました。その場所は市内の東梶返三丁目の源山墓地の一角にありました。その変災死亡者名から犠牲者を一人ずつ確認しましたが、朝鮮人犠牲者の名前は見つかりませんでした。北九州への帰路、

小羽山墓地の沖ノ山炭鉱碑(三炭組炭鑛坑内死亡永慰霊・一九一一年三月三日)にも犠牲者名はありませんでした。この時期は、宇部の炭鉱に朝鮮人坑夫はまだ入っていないようです。

小雨模様の中、私たちは二本のピーヤが見える長生海岸にやってきました。

二月一日に追悼式があった広場の裏手に、新浦炭鉱(長生第二炭鉱)の石碑がありました。この碑は一九二一年(大正一〇)

一二月三〇日午前一〇時頃に海底が陥落、浸水のために多くの犠牲者を出し、その方々を弔うために建立されたものです。

自然石に大きな字で「殉職者之墓」と書かれ、周囲の石碑に犠牲者三四名の名前が刻まれています。その左端に朴天基(パク・ナルギ)という朝鮮人名を見つけました。山口会長は「三四人の犠牲者のなかの唯一の朝鮮人です」と言われました。

その後、海岸道路沿いにある長生炭鉱の跡地をたどりまし。道路側溝の露出土に、かつての貯炭場の一部の黒ずんだ部分があり、この一部を一九三三年の写真



写真②フィールドワークのロードマップ

と(経営者の頼尊淵之助氏と前年まで経営者だった山田新松氏、写真右下にはチマチヨゴリの朝鮮人女性、さらに引込み

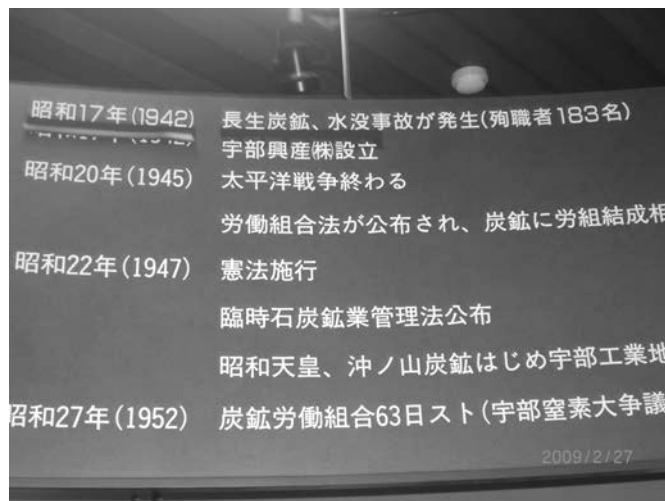
線が棧橋の沖合いの船着き場まで走っている) 符合させるとよくわかります。私たちは藪をかき分け、ようやく長生炭鉱の本坑口跡にたどり着きました。この入り口から二本のピーヤを過ぎてポンプ座までの約五〇〇、六〇〇mは下りで、ポンプ座から坑道は上りになっていたといえます。さらに、二本のピーヤをつなぐ沖合い約一〇〇〇m付近にササ部屋(坑内現場事務所)があり、事故当日、この部屋の前を「ゴーツ」とすざましい音の海水が低いポンプ座めざして流れ込んでいった様が目に見えました。

その後、私たちは長生炭鉱殉難者之碑を訪れました。(一九八二年四月吉日建之)そこは海岸から約三〇m程線路側に入った場所です。ただ、碑石には建設委員一〇名と公民館三名の名前しかなく、どこにも一八三名(朝鮮人一三十余名は太平洋戦争中において、一度の犠牲者数では国内最高)の犠牲者の名前はありません。石碑に“永遠に眠れ 安らかに眠れ・・・”と書かれています。これが

では犠牲者たちはとてもそんな気持ちにはなれないだろうと、正直思いました。特に朝鮮人犠牲者にとっては『恨』の気持ちが強いのではないかと思います。近くを走る宇部線の脇には、石炭を運び出す巻き櫓(やぐら)の跡が残っており、この説明を聞きながら、当時、会社は海底で命がけで働く炭鉱夫よりも、掘りだされる石炭の方が大切だったのではないかと思えてきました。

今回のフィールドワークは、朝鮮人坑夫酷使の様子やその家族らの生活実態を具体的に知ったことが大きな収穫でした。最後に訪れた石炭記念館二階の「宇部の石炭の歴史と民俗」コーナーには『長生炭鉱、水没事故が発生(殉職者一八三名)』(一九四二年)と書かれています。これは五年ほど前、山口会長らが長生炭鉱の記載がないことに抗議し、その後書き加えられたと聞きました。何事も要求しなければ前進はありません。石炭資料館の成果を知って、とてもホットな気持ちになりました。

今夏は多くの皆さんと一緒に『長生炭鉱等のフィールドワーク』を体験したいと思います。



写真③ 石炭記念館二階の記載

追悼式に参加して

大和 裕美子

今回、初めて追悼式に参加させていただき
ました。私は北九州市出身で、今は福岡市

の大学院の博士課程に在籍しています。長
生炭鉱のことを知るまで、宇部市には一度
も来たことがありませんでした。長生炭鉱
のことを知ったのは、今から3年ほど前
です。修士のときに、戦争直後の山口県の社
会について調べていたので『宇部市史』を
読む機会がありました。そこに長生炭鉱に
ついて書かれてあり、そのとき初めて長生
炭鉱という炭鉱が西岐波にあったこと、そ
こで事故が起こり、多くの朝鮮半島出身者
が犠牲になったことを知りました。

「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会」
という市民グループがあることを知ったの
は、たしか新聞に追悼式が開催されたこと
を伝える記事を読んだからだったと記憶し
ています。

それからしばらくして、代表の山口先生

とお会いしました。会う前までは緊張して
いましたが、実際お会いすると先生はとて
も優しく温かい方で、あまり緊張すること
なく、先生の小学校のときのことなど、い
ろいろなお話をうかがったのを覚えていま
す。

「刻む会」の方々とは、追悼式の前行
われた教会での会議で初めてお会いしたの
ですが、みなさんも大変温かく迎えてくだ
さり、追悼式以外の観光などの旅程にも随
行させていただきたい、という勝手な私の
申し出にも快諾していただき、とてもうれ
しく思いました。

ですが、やはりいざ追悼式の日が近づく
と、少し不安な気持ちになりました。私は
韓国語が話せないのです、コミュニケーション
ンがとれるかどうかが一番心配でした。で
も、その心配は無用でした。韓国に長年在
住しておられる堤さんと、広島のパハクテ
さんが、通訳をしてくださったからです。
お二人のおかげで、とりわけ会長の金亨洙
さんと副会長の楊玄さんからは水没事故の
ことや、それを今どう思っておられるかな

ど、いろいろなお話をうかがうことができ
ました。（この場を借りてお礼申し上げま
す。）そしてなにより思ったのが、言葉を介
さなくても気持ちは伝わる、ということ
です。金南祚さんがピーヤのある海を見た
とき、涙を流されているのを見て、金さん
の気持ちは痛いほど伝わってきました。

3日間はあつという間に過ぎました。別
れるときはとても悲しかったですが、それ
だけかけがえのない時間を共に過ごすこと
ができたということだと感じています。来
年の追悼式にも、ぜひ参加させていただ
きたいと思っております。



海の底で眠っておられるお父さん

今日は、韓国で暮らしている ある日本人が水没事故を追悼する意味で書いてきた手紙を弔辞の代わりにさせていただきます・・・

アリラン アリラン アラリヨ アリラン
コゲル ノモカンダ

皆さんが、このアリランの歌を歌われながら、どれほど多くの血の涙を流されたでしょう

か。

苦しく辛い絶望の中で、会いたい家族のことを思いながら、どれほど多くの血の涙を流されたことでしょうか。どれほど多くの血の涙を流されたことでしょうか。どれほど多くの血の涙を流されたことでしょうか。動物以下の扱いを受け、どれほどお腹が空かれたことでしょうか。

2009年弔辞(堤 美貴)

その解くにも解く事のできない恨みは、今もなお解く事さえもできず、まだ今も海の底で眠っておられる皆さんのことを思うと、心が張り裂けるような憤りと悲しみで一杯になります。

その恨みは一体どうやったら解く事ができるでしょうか？どうやったら償うことができるでしょうか？

私は恥ずかしながら、皆さんの存在さえ、強制労働者達の事さえ良く知らなかった日本人の一人です。そして、その私が今、韓国で暮らしているのです。皆さんが帰りたいも帰ることの出来なかった祖国、韓国で暮らしているのです。皆さん達から祖国の言葉を奪

い、文化を奪い、名前を奪い、全てを奪った日本人の血が流れている私を、どういった思いで見られるでしょうか。きつと、私の考えでは殺したいという思いと憎く悔しい思いで一杯になられることでしょうか。

すみません。どうかお許し下さい。この言葉を何度言ったとしても、皆さんの恨みが解ける事はないでしょう。でも、この言葉しか思いいあたらないのです。皆さんの前に頭をあげることさえできない私であります。

私は皆さんの祖国、韓国で多くの情を知り、受けてきました。韓国で暮らしながら、与えても与えてももつと与えてくださる情の深さを知りました。

皆さんはそんな情を十分に受けることもなく、親となつて子供に与える愛情さえも、祖父となつて孫に与える愛情さえも与えることもなく・・・逝かれたんですね。

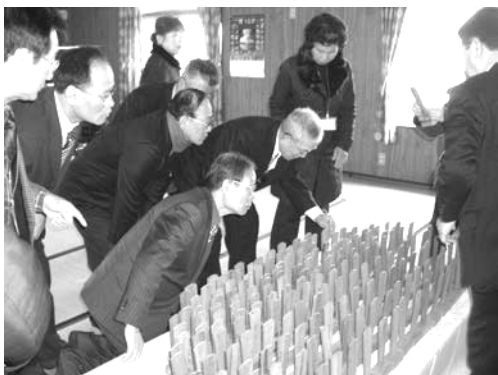
そういう皆さんの立場を思うと、今、こうやって平凡に幸せに暮らしている私は、とても申し訳ない思いで一杯になります。

私がいつも忘れることの出来ないひとつに、日本にいる時に読んだある新聞の記事があります。それは、植民地時代、日本の九州に連れてこられた強制労働者達の内容でした。祖国に帰りたくても帰れない、会いたくても会えない親、兄弟を思いながら、自分達の故郷と同じ山並みを九州の八女(やめ)地方まで行って探し出し、祖国韓国に思いを募らせていた・・・という内容でした。私はこの記事を何度も思い起こしました。そして私もまた、私の故郷に似た山並みを韓国で見つけて

は、日本の両親への思いを募らせると共に、強制労働者たちと比べれば、私はどれほど幸せな立場で暮らしているだろうか。少しくらいきつなくても一生懸命がんばろう、その方たちに恥ずかしくないように、と、自分に言い聞かせました。皆さんがその当時、恋しくて心はせた山並みを今、日本人の私が皆さんとは逆の立場で見ている・・・という現実にとっても複雑な思いになります。皆さんの存在を知ってから私は、その山並みを見るたびに、皆さんのことをより深く考えるようになり、皆さん達のことを永遠に忘れることなく、いつも感謝の思いで暮らしていきたいと思えます。

それから、皆さんたちが受けようとしても受けることの出来なかった全ての愛情をこの私が、この韓国の地で韓国人のために施して、そして韓国と日本の架け橋になりたいと思いつながら・・・。それから、暗く冷たい海の底に眠っておられる皆さんたちが一日も早く天馬に乗って、祖国、韓国へ帰って来られることを切に願っています。





西光寺にて位牌とご対面

2009年 遺族招聘 フォトギャラリー



ピーヤに向かってチエーサ



海底の犠牲者へ献花



追悼式後の市民交流集会



県庁訪問

2009年 遺族招聘会計報告

収 入		支 出	
遺族招聘カンパ	684,700	旅費（宿泊含）	320,640
個人	(508,000)	食費（3食）	71,640
グループ	(176,700)	広島原爆資料館等	13,520
交流懇親会会費	58,000	会場費	12,000
		交流会費	106,130
		追悼式諸費用	37,966
		現地交通費	128,136
		通信費	32,395
		雑費	26,833
		繰越金	▲6,560
合 計	742,700	合 計	742,700

新事務局長挨拶

この度「長生炭坑“水非常”を歴史に刻む会」の事務局長の任に当たることになりました小畑太作（おばた たいさく）です。新参者のわたしが何故に事務局担当になったかと言えば、それは、従来より事務局をおいてきた日本基督（キリスト）教団宇部緑橋教会の、わたしが牧師であるということ以外の何故でもありません。

2009年3月24日に徳山より転居、4月1日の宇部緑橋教会への着任以来およそ40日ほどは、新たな生活の形成は勿論のこと、教会や教区（日本基督教団西中国教区；山口県、島根県、広島県の70の教会による地域共同体）の総会の諸準備や事後処理、そして何よりも新たな教会での新たな人々との関係の構築と、めまぐるしく日々を過ごして来ました。5月の事務局会議においてこの度の担当の話が出た時期というのは、丁度そうした慌ただしさから抜け出し始めた頃のこと。恐らくは、話が出されたというのもそれを見計らったのでありましょう。二つ返事でお引き受けした次第。というのも、宇部緑橋教会としてもこの運動には積極的に参加しているのであって、実は牧師招聘（しょうへい）を受ける際にもこの運動を積極的に担うことが条件でもあったのでした。

しかしながら「新参者」であることには変わりないのであり、未だ実質的な事務仕事をしていない事務局長です。とりあえず、ホームページの管理運営を先ずは手がけて行く予定です。その他、ご依頼ご希望がありましたら、とりあえずお寄せ下さい。分からないことが多く、ご迷惑をおかけするかも知れませんが、やりながら考えながらしていく中で、「役に立つ」事務局担当へと成長させていただければと願っています。

追悼碑の土地取得の中、急ぎつつもしかしじっくりと歩みを進めていく所存です。今後とも宇部緑橋教会共々よろしく願いいたします。

日本基督教団 宇部緑橋教会 牧師 小畑太作



新川まつり（'09/5/5）で宣伝